

【研究対象】2014年4月から2015年9月までに国立がん研究センター中央病院で緩和医療科に受診された全ての患者さんを対象とします。

【研究の概要】悪性腸腰筋症候群（Malignant Psoas Syndrome：以下MPS）は腸腰筋内の悪性疾患により疼痛や神経障害や筋攣縮などを起こす症候群です。少数の症例報告やレビューで、難治性疼痛であること、日常生活動作における障害が強いこと、医療用麻薬のほかに鎮痛補助薬や筋弛緩薬が症状改善に有効な可能性があることが示されています。しかし疫学や診断時の注意点、近年のがん治療や新規鎮痛薬の効果についてあまりよくわかっておりません。本研究では当院のMPSについて後方視的カルテ調査を行い、これを明らかにし、MPSを有する患者さんの治療やケアの在り方を検討することを目的として計画されました。

【研究の意義】疫学、症状、身体所見、画像診断の特徴が分かれば早期診断につながります。これにより手術療法や放射線療法など局所治療を検討できます。また疼痛や神経障害や動作障害が強い病態とされていて、日常生活やがん治療への影響が大きいことが予想されます。これに対し有効な鎮痛薬や治療法を検討することができ、生活やがん治療のしやすさが改善することが期待されます。

【目的】上記を受けて、本研究では当院のMPSについて後方視的カルテ調査を行い、これらを明らかにすることを目的とします。

【方法】2014年4月～2015年9月に緩和医療科に依頼された当院での全入院/外来症例を対象に、CT検査で腸腰筋内に悪性疾患が存在するかどうかを確認します。存在する場合はカルテ記載内容から疼痛を有したと判断された場合にMPSと診断します。診断された例について年齢、性別、癌種、病期、PS、原病発症時期、MPS症状発症時期、死亡日、病変部位と性質と大きさ、画像所見、疼痛の程度、神経障害や筋攣縮や合併症の有無、鎮痛薬の種類と量、化学療法や放射線療法や神経ブロック療法などの有無と効果についてカルテを後方視的に調査します。

【個人情報保護に関する配慮】診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、上記解析を行う際には、患者さんの氏名などの個人情報は省いて検討を行い、これらの個人情報が決して外部に漏れることのないよう注意を払います。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて患者さんからご希望があればその方の診療録は研究に使用致しません。研究結果がすでに学会や論文等で報告されている場合にはご希望に添えないこともあります。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究責任者：国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 木内大佑

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL：03-3542-2511, FAX：03-3542-3815